

平成30年10月 1日
仙台森林管理署

宮城蔵王におけるアオモリトドマツの立枯について

宮城県側の刈田岳から屏風岳にいたる国有林において、アオモリトドマツの立枯が発生しています(写真1参照)。

このため当署としては、その原因及び対策等を検討するため、森林総合研究所東北支所の専門家による現地調査を行うとともに、目視等によりその範囲を推測しました。



写真1 蔵王エコラインからの状況



写真2 トドマツノキクイムシの穿孔痕

<原因等>

立枯の原因は、残念ながら不明です。しかし、立枯しているアオモリトドマツの幹を見ますと、どの木にも多くの小さな穴が見られます(写真2参照)。これはトドマツノキクイムシが穿孔した痕です(写真3、4参照)。

トドマツノキクイムシはもともとこの地域に生息していますが、昨今の気温上昇がキクイムシの活動に大きな影響を与えていると考えられます。

また、現地は強風が吹くことに加え、最近の夏場の高温化によって一年を通じての寒暖差が大きくなっており、これらがアオモリトドマツにストレスを与え、樹勢を弱らせていると考えられます。



写真3 トドマツノキクイムシの穿孔

このようなアオモリトドマツへのストレスの高まりとキクイムシの活動の活発化が相まって、立枯が増えている可能性があります。

一方で、立枯した林分の林床にはアオモリトドマツの稚幼樹が見られます(写真5、6参照)。これにより上木のアオモリトドマツが枯れたあとには、次の世代のアオモリトドマツが育つことが期待できます。

なお、アオモリトドマツが枯れたとしても、倒れない限り樹氷ができることは確認されています。



写真4 トドマツノキクイムシ(体長約3～4mm)
(森林総合研究所東北支所提供)

<当面の対応>



写真5 アオモリトドマツの下に生息する幼樹 写真6 ササの間に生息する稚樹

<立枯の範囲>

現地踏査の結果をもとにした立枯の範囲は別図のとおりです。なお、この立枯範囲は集団的に立枯が見られる概ねの範囲であり、この範囲内にあるアオモリトドマツの全てが枯れていることを示しているものではありません。

<当面の対応>

対策として、トドマツノキクイムシを駆除するための伐倒駆除や薬剤散布等が考えられますが、現地は自然公園法に基づく国定公園特別保護地区に指定されており、高山帯に生息する他の昆虫類等への影響が懸念されます。

このように、現状では有効な対策が見当たりませんが、立枯の原因が自然現象によるものであれば、自然に収束する可能性があります。

これらを踏まえ、当面の間は、アオモリトドマツの立枯範囲の変化を注視するとともに、稚幼樹の成長についてモニタリングを行うこととしています。

(別図)

